

広告

石狩暮らし

市民の“十人十色”な暮らしを、ご紹介します。



①



②



③



④



⑤

- ①はじめに型紙を切って、使うガラスに貼り、ガラス切りでカットします。細かい部分はニッパーでカットします。
- ②カットしたガラスはさらにルーター(ガラス削り機)で削ります。
- ③パーツごとに銅テープを巻き、ハンダ付けします。
- ④昨年11/3(日)に行われた市民文化祭浜益会場にて。
- ⑤岸本さん宅の玄関には、これまで制作した作品がずらり!ご主人による飾り付けだそうです。

きらめく光のアート 「浜益のステンドグラスの会」

「浜益の市民文化祭では毎年ステンドグラスが展示されている」

そう聞いて、一体どんな物がステンドグラスで作られているのだろうかと昨年11月、会場の浜益コミセン「きらり」を訪れました。

通路の一角に、お目当てのステンドグラスがありました。壁かけやクリスマスツリーといった大きな作品が並ぶほか、最も多かったのはランプシェードで、色とりどりの優しい光がとても印象的でした。

作ったのは、浜益で活動する「ステンドグラスの会」。現在5人のメンバーが楽しく活動しています。

ステンドグラスは、たくさんの色ガラスをカットし、つなぎ合わせて絵や模様を作り出すもの。作業は繊細で、かつ正確さが求められる上、作品によっては、100を超えるパーツをつなぐこともあるそうです。「肩は凝るし、目もつらいから1年間、作り続けることはできないけど」と苦笑するのはメンバーの一人、岸本アイさん(71)。

とはいえ、市民文化祭の開催1カ月前ともなれば、作品を仕上げるのに夢中になって、疲れも忘れて没頭するのだとか。会長の石橋ミツ子さん(67)は「文化祭には10年続けて出品しています。ステンドグラスの道具は重いし、作品は脆くて運ぶのも大変ですけど、出来上がるときれいで、やめられません。こんなに続くと思わなかったけれど、浜益でステンドグラスというのがいいでしょう?」

ステンドグラスの会

浜益村時代、生涯学習の一環で行われたステンドグラス講習会に参加した石橋ミツ子さんが、その後、メンバーを募って平成7年に同会を結成。

現在は石橋さん、岸本アイさん、中元良子さん(67)、澤村恵子さん(66)、工藤麗子さん(62)の5人で活動中。その作品は毎年、市民文化祭浜益会場で発表しています。

